

岡山県

せいきよう連 会報

2021年

新年号

CONTENTS

- 1 会長理事、岡山県知事
- 2 岡山県議会議長、日本生協連会長
- 3 副知事、県行政と懇談し、意見交換を行いました。
- 4 会員生協の組合員、役職員が交流し、学びました。
- 5～6 コロナ禍の中で
- 7 協同組合間の連携を進めました。
- 8 NPO消費者ネットおかやま、県消団連とともに
- 9～11 会員生協トピックス
- 12～14 会員生協紹介
- 15 岡山県生協連紹介 SDGs

迎春



新年のご



「新年のご挨拶」

岡山県生活協同組合連合会 会長理事

近 藤 清 志

新年あけましておめでとうございます。

行政並びに友誼団体の皆さまにおかれましては、日頃から生協に対しまして、ご指導、ご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。

生協は、暮らしと健康、いのちを守り、安心して暮らすことができる地域社会の実現をめざす助け合いの組織として、組合員数は70万世帯を超えています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、いのちの危機とともに、事業や雇用、暮らしに対して大変大きな影響を与えています。

生協では医療や購買、福祉、共済など暮らしを支える事業を担い、コロナ禍の厳しい環境の中で、その役割を発揮し、また物資の提供や募金活動など様々な支援活動を進めています。

暮らしをめぐる、コロナ禍での失業者の増大や格差拡大などさらに厳しさが増し、貧困と格差の問題は、引き続き社会全体の問題として、解決しなければならない課題となっています。

温暖化対策の新ルール「パリ協定」の本格的な運用が始まり、日本も2050年までに温暖効果ガスの排出を実質ゼロにすることや脱炭素社会の実現をめざすことが宣言され、国全体のエネルギー政策の転換とともに暮らしや事業分野でも大きな課題となってきます。

核兵器と平和の問題では、核兵器禁止条約が発効される見込みとなるなど新たな動きも生まれています。

国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」では、こうした貧困や不平等の解消、持続可能な経済・社会の実現、気候変動への対応等17の目標が決められ、その取り組みは社会全体でも益々重要となっており、私たち生協でも、取り組みを強めていきます。

少子高齢化、人口減少社会が進む中、高齢者の社会的孤立、医療介護問題、生活基盤としての地域のインフラ確保など社会全体の大きな課題となっています。

「協同」の組織として生協では、行政や様々な団体の皆様と連携しながら「安心して暮らし続けられる地域社会」の実現、地域の課題解決にむけ、取り組みを進めていきます。

最後になりましたが、皆さまのご健勝、ご多幸を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。今年もどうかよろしくお願い致します。



すべての県民が明るい笑顔で暮らす
「生き活き岡山」を目指して

岡山県知事

伊 原 木 隆 太

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

現在、我が国は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大変厳しい状況にあります。本県においても、全力を挙げて、県民の命と暮らしを守る対策に取り組むとともに、この感染症がもたらした社会の変化に対応していくことが大きな課題となっています。

今年は、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症への対応とともに、教育と産業をはじめ、医療・福祉サービスの充実や、結婚から子育てまでの切れ目ない支援、持続可能な中山間地域の形成などにも引き続き力を注ぎ、さらに数多くの成果を皆さまに実感していただけるよう、さまざまな施策を進めてまいります。

また、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興については、被災された方々に寄り添ったきめ細かい支援と、災害で得た教訓を生かした、より災害に強い岡山の実現に、全力で取り組んでいます。

さらに、デジタル化や働き方の変化、地方への移住機運の高まりなど社会が大きく変化する中であって、本県の存在感を高める取り組みも鋭意進めてまいります。

これまで、すべての分野の好循環の原動力になる2本の柱として、「教育の再生」と「産業の振興」を強力に推進してまいりました。その結果、子どもたちが落ち着いて学べる環境の整備、地元企業や誘致企業による安定的な雇用の創出など、目に見える成果が表れてきています。

現在、来年度からの4年間を行動計画期間とする「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」の策定を進めています。昨年11月に公表した素案では、現行のプランに引き続き、「教育県岡山の復活」、「地域を支える産業の振興」、「安心で豊かさが実感できる地域の創造」の3つの重点戦略を掲げ、その下に、近年の豪雨災害や感染症、人口減少社会への対応などの重要課題も踏まえた戦略プログラムを置いています。今後、皆さまからいただいたご意見を反映させた上で、県政の新たな羅針盤の策定を目指します。

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現に向け、さまざまな主体と連携しながら、本県の持続的な発展の道筋を確かなものとするため、各種の施策・事業を推進してまいります。希望あふれる明るい未来のために、全身全霊で取り組んでいますので、一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

あいさつ



「年頭のご挨拶」

岡山県議会議長

波多 洋 治

令和3年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

現在、我が国は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大変厳しい状況にあり、本県においても、県民の命と暮らしを守る対策に取り組むことが大きな課題となっております。また、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興についても、その取り組みは着実にその歩を進めておりますが、被災された皆様が本来の生活に戻れますよう、県議会として、引き続き力を尽くしていく所存でございます。

我が国は、急速な少子・高齢化の進展により、人口減少社会を迎える中、地域経済の活力低下や労働人口の減少など大きな課題を抱えています。こうした課題に加え、自然災害や新たな感染症への対応など、私たちは、過去に経験したことのない厳しい環境の中に置かれています。

今後、一層進む社会構造の変化に対応しながら、本県の持続的な発展につなげ、住みよい地域を築き上げていくためには、本県の有する魅力や優位性など、発展可能性を最大限活用するとともに、議会と行政が互いに協調し、車の両輪として、各種施策の実現に向けた取組を進めていくことが大いに求められています。

私ども、県議会といたしましては、こうした皆様のご期待に適切に応えるため、本年も、大きく変化する社会の中で、教育、医療、産業振興など多岐にわたる県政の課題を見据え、議員一同、積極果敢にチャレンジしてまいり所存です。県民の皆様、企業、団体等の皆様におかれましては、引き続き、お力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆様にとりまして、新しい年が、輝かしいものとなりますよう、併せて、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



「新年の御挨拶」

日本生活協同組合連合会 代表理事長

本 田 英 一

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の役職員の皆様が、組合員のくらしと地域を支えるため、日々奮闘されておられることに心より敬意を表します。

昨年も全国の生協では、地方自治体や諸団体と連携しながら、くらしを支え合い社会のつながりを紡ぎだす取り組みを推進されてきました。

7月豪雨では、被災地の生協を中心に復興ボランティアに取り組み、コロナ禍で現地入りが難しい地域の生協も募金や物資提供に協力しました。また、コロナ禍で生活に困窮する家庭やひっ迫する医療現場への食料・物資提供・募金・助成を通じた支援など、様々な活動が広がりました。改めまして、助け合いの精神にもとづく全国の皆さまの熱心な取り組みに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちのくらしを一変させ、生協の事業・活動にも新たな課題を浮かび上がらせています。地域に根差した助け合いの組織としての生協・協同組合が果たすべき役割はますます重要になっています。引き続き、組合員から寄せられる声に応え、利便性を高める仕組みづくりや多様なライフステージやニーズに対応した商品づくりをすすめ、組合員のくらしの貢献につなげていきます。

2021年は全国の生協・協同組合の連携・連帯とあわせて、行政や諸団体とのネットワークをより豊かなものにしながらつなげる力を高め、2030年ビジョンで掲げた「安心してくらし続けられる地域社会」の実現に向けてともに未来を切り拓いていきましょう。

この1年が皆様にとって実り多き年になりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

副知事、県行政と懇談し、意見交換を行いました。

●岡山県菊池副知事との懇談【10月30日(金) 県庁応接室】

岡山県から、菊池副知事、くらし安全安心課倉森課長、藤原総括参事、藤原副参事に出席いただき、県生協連から、会長、副会長2名、専務理事、事務局長の計5名が出席して懇談しました。

最初に生協から、全国ならびに岡山県の生協の概況やこの間生協が進めてきた地域社会づくりの取り組み、新型コロナウイルス感染拡大による生協事業への影響、また、日本の生協の2030年ビジョンの内容について報告をしました。

副知事から、新型コロナウイルス感染症に関する県の状況について、外出自粛などの厳しい要請をしなくても県民が自主的に自粛いただいたことやウイルスの感染力が強まっている中、集団での会食による感染の注意をすること、県ではインフルエンザが同時流行しても対応できる診察可能な医療機関を353カ所に増やしたことなどの話があり、懇談を行いました。また、社会的弱者や貧困の問題について、フードバンク活動や社協などの諸団体との連携を紹介しながら、県行政に果たしてほしい役割などについて意見交換を行い、課題を共有する場となりました。



●岡山県へ「要望書」を提出【8月27日(木) 県庁くらし安全安心課】

県生協連では、毎年、県行政に対して、生協の理解を広めるとともに、県民のくらしを守り生協の活動が前進するように、県への要望を取りまとめています。

今年度も、岡山県への「要望書」を8月27日(木)に提出しました。今年度は、①新型コロナウイルス感染症拡大への県民の不安を取り除くことや県民の命と健康を守ることを最優先に、医療体制の崩壊を防ぎ、医療の継続に向けた要望を中心にし、そのほか、②災害対策、災害支援、③岡山県の3つの主要な計画づくりについて、④県内農林水産業の支援と育成の4つのテーマに関する要望としました。くらし安全安心課の倉森課長に対して要望書の内容について説明を行った後、質疑応答や意見交換を行いました。



●岡山県行政との定期懇談【10月30日(金) 分庁舎会議室】

「要望書」に対する回答を受け取る県行政との定期懇談を行いました。

岡山県から、くらし安全安心課3名をはじめ、要望項目の管轄部署13名の計16名、県生協連から6名が参加しました。今回も「要望書」の項目に関係するすべての部署から出席をいただき、直接、回答を受け、質疑応答を行うことで、内容をさらに深めることができました。懇談では、事前の回答に加えて、新型コロナウイルス感染症対応では、インフルエンザ同時流行に備えて発熱患者を診る医療機関を大幅に増やしていくことや簡易な抗原検査キットを導入して1日7000件の検査を可能にすること、不足している医療用手袋は、備蓄があるので相談があれば対応すること、また、災害避難所の感染症予防資機材の市町村での備蓄が増えていること、農業担い手育成では30代、40代の新規就農者が増えていることなど、質疑応答や意見交換を行い、情報収集と課題共有を行いました。



●行政の協議会・懇談会などへの委員参加

「岡山県消費生活懇談会」の委員や「岡山県食の安全・食育推進協議会」などの委員を担うとともに、中国四国農政局主催の「消費者団体等との意見交換会」や「消費・安全対策交付金事後評価検討会」などに県生協連や県消団連として参加し、消費者の立場からの意見表明を行うなど役割を發揮しました。

会員生協の組合員、役職員が 交流し、学びました。

●県生協連・会員生協役員研修交流会【1月10日(金) オルガホール】



県生協連・会員生協役員研修交流会を開催しました。

第一部では、日本生活協同組合連合会、藤井喜継専務理事が「日本の生協の2030年ビジョンについて」と題して講演を行いました。2030年に向けた情勢の変化として、人生100年時代や人口減少と人口変化、高齢化、格差と貧困、地球温暖化、社会的孤立、イノベーションなどにふれ、さらに2020年ビジョンの振り返りから、人と人との「つながり」や「たすけあい」が着実に日本社会に根付きつつある一方で、今の世界がお互いを尊重し合う社会から遠ざかっており、日本でも格差と貧困が広がるとともに生活インフラの維持が困難になる地域が増えていることから、その解決に向けて、新たなビジョン作成の必要性を強調され、2030年ビジョン一次案の説明がありました。

あらためて、「日本の生協の2030年ビジョン」は、世界と日本の抱えている困難の解決に向け、SDGsを共通言語として一体となって推進し、生協が持つ「協同の社会システム」を広げ、笑顔あふれる社会をつくる力となること、より多くの人々がつながる生協をつくる新たな挑戦の10年を踏み出すことなど学び考えることの出来た講演となりました。

第二部では、「災害支援から見えてくること」と題して、AMDAの菅波茂理事長の講演を行いました。菅波理事長の世界各国での長く幅広い活動や経験の中から導き出された、人としての生き方や振る舞いなど人生訓、村二分の大切さ、裏切らない人の3つの要素、絶望状態の人への接し方、血縁共同体社会、HOWより総論が必要、援助を受ける側にもプライドがあることなど、普段聞けない視点で貴重なお話を聞くことができました。最後に南海トラフ災害対応に関するAMDAの世界災害医療プラットフォーム構想や災害医療起動チームなどについて説明があり、AMDAへの理解を深めることができました。



日本の生協の2030年ビジョン

- ①生涯にわたる心ゆたかな暮らし②安心して暮らし続けられる地域社会③誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本④組合員と生協で働く誰もが活き活きと輝く生協⑤より多くの人々がつながる生協

●「ヘルスチャレンジ2020」に取り組み、10,604人が参加しました。【9月～11月】

「ヘルスチャレンジ」は、生活習慣を見直すことで、健康寿命を延ばすことや健康づくりのきっかけに、誰もが気軽に取り組める企画として、2005年から各医療生協で取り組みが始まりました。

2012年からは、県生協連が主催して、県内の医療生協を中心に各会員生協全体で取り組んでいます。2019年からは、さらに、県内のJA女性組織協議会など、他の協同組合の皆さんにも参加の呼びかけを広げています。2020年は、チャレンジコースを6つにまとめシンプルに選びやすくするなど工夫した結果、コロナ禍でもたくさんの人が取り組める健康づくり企画となりました。



コロナ禍の中で ～くらしを

現在、新型コロナウイルス感染症は世界各地に拡大し、多くの尊い命が失われ、未だに感染症が収束する見通しは見ておらず、今も第3波の感染症拡大の真っただ中にいます。

この新型コロナウイルス感染症は、私たちの日々のくらしや経済、社会全体に甚大な影響を及ぼしているとともに、生協陣営でも、医療生協や大学生協などを中心に大きな事業上の影響を受けており、深刻な状況となっています。こうした厳しい環境の中で、生協では、医療や購買、福祉、共済などくらしを支える事業を担い、様々な工夫や感染防止策をとりながら、その役割を発揮しています。

●会員生協への影響と取り組み

購買生協 外出自粛による巣ごもり需要の拡大などにより、宅配や店舗で想定を超える利用結集が続く、商品調達や物流のキャパを越えるなど、困難な状況の中でも、組合員に商品を提供し、くらしを支える役割を発揮しています。



店舗での感染症対策（三井造船生協）



宅配が生活のライフラインに（おかやまコープ）

医療生協 受診控えによる外来診療など減少や検診の縮小、また防護具など医療物資の不足と高騰などにより、医療生協の事業は大きな影響を受けています。秋ごろには少し持ち直しましたが、第3波で引き続き、厳しい経営環境が続いています。

こうした中、受診控えによる病状悪化への注意喚起や院内感染防止策の構築、増加する無料低額診療や相談への対応、オンライン面会の実施、フレイル予防等の対策を進めるなど、役割を担っています。



面会禁止のため、オンラインでの面会を実施

大学生協 上期は学生の入構禁止やオンライン中心の授業実施などにより、学生の登校率が下がり、生協店舗の休業や営業縮小のため、大幅な収入減となりました。下期は構内の学生も少し増えましたが、オンライン主体のため、引き続き、大学生協の事業は厳しい状況が続いています。下期から感染防止策をとりながら食堂や喫茶の再開、来年の入学準備説明会をオンラインで実施しています。



食堂では卓上パーティションを設置

共済生協 こくみん共済coopの共済ショップでは、窓口ブースや待合席での距離を空け、ソーシャルディスタンスの確保を行うとともにテーブルや備品の都度消毒、来店者への手指消毒の呼びかけ、対応するスタッフの都度交代など感染症対策をすすめています。



共済ショップでの対策

支える生協の役割を発揮して～

●会員生協の活動の工夫

人と人がつながって様々な事業や活動を行う生協にとって、新しい生活様式により、組合員の参加や接点の低下など、生協の強みである「つながり」の危機となっている中、会員生協では、ITを活用した活動など、新しい活動スタイルを模索しています。

●おかやまコープ 「Zoomで親子クッキング」 オンラインでランチを作ろう!

「集まったの活動はできないけど、おうちに居ながらつながることができたら」という思いから企画したオンラインでの親子でクッキング。オルガ本部のクッキングルームからランチづくりを生配信し、それぞれ自宅のキッチンに居る親子参加者たちがZoomで視聴しながら、同時進行で調理し、「お豆腐生チョコ」「濃厚フルーツヨーグルト」「くまさんトースト」の3品を作りました。

「クッキング以外にも、どんなことができるか考えていきます」と話していました。



●岡山医療生協 「リモート班会」

岡山医療生協のリモート班会とは、インターネットを使って、いくつかの会場で同時に班会を開催します。一人の講師で複数の会場、参加者の分散、他の班との交流など、さまざまなメリットがあります。

常山支部でのリモート班会は、一人の講師の話を2会場で同時に聴けて好評でした。また、この時は、医療生協本部からも高橋理事長がオンラインで参加し、組合員のみなさんに増資のお礼や挨拶を行いました。



●大きな影響を受けている医療生協と大学生協への支援

経営に大きな影響を受けている医療生協と大学生協に対して、県生協連今年度予算で新型コロナウイルス感染症拡大の影響で未執行となる500万円を拠出する支援を行いました。

支援は、各生協が必要とする新型コロナウイルス感染症対策消耗品等の購入に活用していただくための支援金として、岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協、岡山大学生協、就実生協に贈呈しました。

また、おかやまコープからは、上記の5生協に対して、不織布マスクを各生協2,000枚ずつ、計10,000枚を贈呈しました。岡山県学校生協は、岡山医療生協と倉敷医療生協に対して、不織布マスク(各生協20万円分)を贈呈しました。



県生協連から支援金贈呈



おかやまコープからマスク贈呈



県学校生協からマスク贈呈

協同組合間の連携を進めました。

●協同組合をアピールするポスターを作成しました。

協同組合は、共通のねがいを持つ人々が出資し、民主的かつ自主的に運営していく事業体であり、相互に助け合って、よりよい暮らしを実現するための組織です。岡山県にある生協、農協、漁協、森林組合の4つの協同組合は、1996年に県内の協同組合相互の連携促進や共通課題の実行などを目的に「岡山県協同組合連絡協議会」を設立しました。

2012年の「国際協同組合年」では、「国際協同組合フェスティバルinおかやま」を開催し協同組合の役割や活動をアピールしました。ここ数年は、おかやまコープのコープフェスタで協同組合コーナーのブース参加などを進めていましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でコープフェスタが中止となったため、協同組合のアピールの一つとして協同組合を知らせるポスターを初めて作成し、県内の各協同組合の事業所や店舗に掲示をしています。

●「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」は25周年を迎えました。



1995年のICA（国際協同組合同盟）総会で、21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す新しい協同組合原則である「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」が採択されて2020年で25周年を迎えました。これは、現在の世界中の様々な協同組合の指針となっており、日本の生協もこの原則に則って運営されています。

協同組合のアイデンティティに関するICA声明

21 世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す新しい協同組合原則

定義

協同組合とは、人々が自主的に結びついた自律の団体です。人々が共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを充たすことを目的にしています。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値に基づいています。組合員は、創始者達の伝統を受け継いで、正直、公開、社会的責任、他者への配慮という倫理的な価値を信条としています。

原則

協同組合は、その価値を実践していくうえで、次の原則を指針としています。

第1原則 自発的で開かれた組合員制

第2原則 組合員による民主的管理

第3原則 組合員の経済的参加

第4原則 自治と自立

第5原則 教育、訓練および広報

第6原則 協同組合間協同

第7原則 コミュニティへの関与

NPO消費者ネットおかやま、 県消団連とともに

県生協連は、消費者の利益擁護や権利の確立及び消費者行政の充実を目指して、消費者ネットおかやまと県消団連を事務局として支えています。

●適格消費者団体「消費者ネットおかやま」

2015年12月に全国13番目の適格消費者団体（現在は21団体）として認定を受けた消費者ネットおかやまは、消費者被害拡大の防止を目的に、不当な契約、約款、広告表示に対して事業者へ直接、是正の申入れや差し止め請求を行っています。2020年2月には、健康食品販売業者に対して、景品表示法の優良誤認表示の改善を求める訴訟を行っています。



訴訟記者会見

●見守り力アップ講座を開催しています。



見守り力アップ講座（倉敷市役所会議室）

消費者ネットおかやまは、岡山県の委託事業として、消費者被害防止に関する意識と知識を持った人材や地域の見守り活動に参加する実践力を備えた人材を養成することを目的に「見守り力アップ講座」を開催しています。特に健康やお金、孤独の不安を抱え、判断力の低下が避けられない高齢者に付け込んだ悪質商法や特殊詐欺などの被害が後を絶ちません。こうした高齢者の消費者被害を防止するためには、地域で連携した「見守り」が大切ですので、上記の人材を増やすためにこの「見守り力アップ講座」で地域の見守り力を向上させることを目指しています。

●「岡山県消団連」幹事会で学習をすすめました。

岡山県消団連が毎年開催していた「岡山県消費者大会」が新型コロナウイルス感染症の影響で2020年は中止となりました。そこで、岡山県消団連が定期的に開催している幹事会の場で、毎回、テーマを変えて学習会を開催しています。第1回目は、公正取引委員会中国支所の職員を講師に、独占禁止法と景品表示法について、法律の内容や留意点、広告の問題などについて学びました。

第2回目は、特定非営利活動法人「気候ネットワーク」から講師を招き、「気候危機の現状と課題、脱炭素社会に向かう世界」をテーマとして、現在、地球が抱えている気候危機の現状、温室効果ガス削減に向けた世界の動きや先進事例、日本の課題などについて学びました。



気候危機の学習会

会員生協トピックス

倉敷医療生協 《職員と組合員が簡易防護衣づくり》

新型コロナウイルスの感染が続き、医療現場で必要な防護衣が不足するという大変な状況に、職員と組合員が力を合わせて立ち向かい簡易防護衣づくりに取り組みました。初めての作業でしたが、カット作業・袖つけ作業など得意なことで手分けして1,000着の防護衣を医療現場に届けることができました。



《地域に広がる平和の鐘つき行動》



平和憲法を守り、核兵器廃絶や恒久平和を願い、毎年9月9日9時9分から各地の寺院で「平和の鐘つき行動」が取り組まれています。2017年以降毎年新しい寺院での取り組みが広がり、2020年度は36カ寺235人が参加し、矢掛町の大通寺では新たに鐘つきが取り組まれました。大通寺の梵鐘には「平和の鐘」の刻印がされています。

岡山大学生協 《受験生サポートの対応》

岡山大学生協では例年、さまざまな受験生の不安を解消するために、生協学生委員会C.C.C!のメンバーを中心に、JR岡山駅での道案内や津島キャンパス・鹿田キャンパス内の道案内・受験生相談の対応を行っていますが、今年度は「新型コロナウイルス感染症予防」の観点から受験生相談に対応する学生スタッフもキャンパス内だけの相談に限定して活動しています。

また、一人暮らしを予定している受験生の便宜をはかるために、11月中旬からアパート・マンションの「合格前予約」の対応を開始していますが、こちらも昨今の「新型コロナウイルス感染症」の広がりに対応して、実際に岡山に来られなくても「合格前予約」の申込みがオンラインでできるようにシステム開発し対応しています。



岡山県学校生協 《エンジョイライフセミナーに36名ご参加いただきました》

組合員の皆さまに充実した退職後の生活に備えていただくため、教職員共済と合同でエンジョイライフセミナーを開催いたしました。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、定員を半数に減らして実施いたしました。

日時 2020年11月29日(日) 13:00～16:25

会場 おかやま西川原プラザ 2F 第1会議室

将来への備え……… 人生100年時代をゆたかに暮らすために
～税金や社会保険、年金制度について～

知ることが安心……… 退職後の住まいを考える

日々の健康……… 電解水素水整水器のご案内

癒しのご提案……… よりよく眠る為のヒント6カ条



おかやまコープ 《たべる・たいせつ活動が「第5回おかやま協働のまちづくり賞 奨励賞」受賞》



鴨方東幼稚園「出前授業」の様子



スマホで簡単に回答できる「食習慣チェック」には約800人が参加

おかやまコープの「たべる・たいせつ活動」は、子どもたちに楽しく食育の大切さを伝える「出前授業」、医療生協の協力を得ながら普段の食生活の栄養素の過不足や食事バランスを知ることができる「食習慣チェック」の活動をすすめています。その取り組みが、未来を担う子どもや親子に食べることの大切さを教え、望ましい食生活を実現できる力を養う機会になっていることなどが評価され、岡山市が行う「第5回おかやま協働のまちづくり賞」で「奨励賞」を受賞しました。

《北長瀬コミュニティ・フリッジへ食料品提供》

施設内で貯蔵された食料品を無料で受け取ることができる「北長瀬コミュニティ・フリッジ（地域のための冷蔵庫）」が日本で初めて実施されることとなりました。新型コロナウイルスの影響が長期化し子育て家庭を巡る生活課題が深刻化する中、おかやまコープは取り組み趣旨に賛同し、取引先の協力をいただきながら、米・もち・お菓子など年末年始の食料品の提供を行いました。



北長瀬エリアマネジメント石原代表(右)にお菓子を手渡す市川全体理事

岡山県労済生協（こくみん共済coop岡山推進本部）《「防災・減災への取り組み」を継続実施中》

新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、2020年度も引き続き「防災・減災への取り組み」を展開しました。8月6日（木）には玉野市玉原地区民生委員の方を対象にセミナーを開催。暑い中、マスクを着用するとともに、熱中症予防として適宜水分補給をしながらの開催となりました。

また、9月12日(土)には天城子どもの家(天城保育園)にて「ぼうさいカフェ」を実施。園児や保護者を中心に50名を事前集約の上、煙体験ハウスやキッチンペーパーマスク、ぼうさいカルタ、ぼうさいクイズを実施。小雨の降る中でしたが、大盛況に終了でき、今後は避難訓練の際にも煙体験ハウスを活用する予定です。

引き続き地域へのお役立ち活動と情報を発信し、協同組合らしい活動を展開していきます。



岡山医療生協 《スマホ使い方教室》

コロナ禍で岡山医療生協ではSNSを使った組合員活動が進んでいます。組合員さんへの学習にも取り組み、提携店による学習会を開催しています。

(株)ドコモCS中国岡山支店による「スマホ教室」では医療生協組合員の要望に沿って、スマートフォンの扱いに慣れることを目的に支部で開催しています。

11月2日(月)の芳田支部の教室ではQRコードの読み込みとLINEの設定などを学習しました。参加者はさっそくLINEを活用して支部の連絡網を作ったり、画面に映る相手の顔を見ながらのテレビ電話を楽しみました。

今後、人と人とのつながり方の新たな方法としてSNSの活用が普及することが予測されます。まずは慣れることから始めています。

会場にはパーティションも用意され、コロナ対策にも配慮して開催しました。



会員生協トピックス

三井造船生協

《牛乳パックのリサイクル活動》

12月1日（火）、三井生協家庭会環境委員は新型コロナウイルス対策を行いながら牛乳パックのリサイクル活動に取り組みました。

生協各店舗の回収ボックスで集められた牛乳パックを、きれいにまとめてダンボールに詰めていく作業を行いました。この後、再生紙メーカーに回収され、トイレットペーパーに生まれ変わります。



津山医療生協

《YouTubeでの動画配信を始めました》

津山圏域では10月後半より新型コロナウイルスの猛威により、定例で開催されていた津山市主催の『こけない体操教室』や、地域の活動、班会の自粛等が続きました。津山医療生協では離れていても繋がりが持てること、一人でも体操が出来ることを目的にYouTubeを作成しました。体操を皮切りに毎月1本を目標に取り組んでいます。

今後は体操に限らず医師の講演等も織り込み継続していく予定です。よろしければ覗いてみて下さいね。



就実生協

《「学食」営業再開 ～学食の新型コロナウイルス感染拡大対策について～》

新型コロナウイルスの影響により、2020年度前半は生協のお店は一時的に全店閉店となりましたが、9月下旬からお弁当販売に限定をして営業再開をしました。その後、学食におけるコロナ対策を下記のように行い11月中旬から「学食」営業再開となりました。営業時間を短縮しているために、利用者数は前年の60%程度ですが、「学食」営業再開は多くの学生さんに喜ばれています。

- ①入口・出口を一方通行にする
- ②入口で必ず手の消毒をしていただく
- ③混雑時には入場に制限をする
- ④席は間引いて離し（通常の半分程度）、卓上パーテーションを設置する
- ⑤利用者には会話をせずに食事をしていただく
- ⑥食べ終わったら、すみやかに退席していただく



グリーンコープ生協おかやま

《地域に根ざした生活協同組合として》

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナ対策に迷いながら心を砕いた年でした。業務は、不安な中でも組合員の願いと信頼に応えるために、全従業員が各々の役割を果たしました。組合員活動はオンラインという手段を得て、新たな活動を生み出しています。このような時だからこそ、一人ひとりの想いを大切にしながら、皆で助け合い笑顔になれるように、地域に根ざした生活協同組合として存在したいと思っています。

本年が明るい一年となりますように。本年もよろしくお願いいたします。



会員生協紹介 (設立期順)

岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長
鳥越 範博

組合員数 19,512 人

出資金 168,138 千円

総事業高 184,986 千円

活動エリア 岡山県内、保・幼・小・中・高等・特別支援・大学職域



設立登記年月日 1949 年 9 月 10 日

役員数 (常勤) 1 人 (非常勤) 17 人 (監事) 3 人

職員数 (正規) 7 人 (内 2 人 出向)
(定時) 3 人 (内 1 人 出向)

概 略

岡山県学校生活協同組合は、県内公私立の保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学、教育委員会等に勤務される方とその職場を退職された方を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949 年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和や暮らしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長
高橋 淳

組合員数 66,527 人
(2020年11月末現在)

出資金 1,906,633 千円
(2020年11月末現在)

総事業高 8,173,861 千円
(2019 年度)

活動エリア 岡山県下一円



設立登記年月日 1952 年 10 月 21 日

役員数 (常勤) 8 人 (非常勤) 25 人 (監事) 5 人

職員数 (常勤) 695 人 (定時) 395 人

概 略

岡山医療生協は、いのちと心を大切にします。

1952 年に設立された当組合は、現在 2 つの病院、4 つの診療所、10 の介護事業所、1 つの歯科診療所、健診センターで構成され、健診から急性期医療～在宅まで、地域のみならず様々な要望にお応えしています。

当組合では、設立当初より「いのちの平等」を掲げ、人権を大切にしたい医療・介護をすすめています。そのため、入院時も部屋代を頂かないことや、2012 年 1 月には 2 つの病院で無料低額診療事業（患者さんの負担能力に応じて、窓口負担分を無料又は低額にする制度）を開始し、拡大する貧困への対応を強めています。

昨年は、新型コロナウイルスが猛威をふるい、我々の医療・介護を始め、組合員活動にも大きな影響がありました。その中で、声をかけ合い、助け合いの活動が広がりました。新しいつながりとして SNS の活用もすすみました。健康づくりや子育て世代に向けた YouTube 動画の作成や web 会議アプリを使用したリモート班会などに取り組みしました。

協同組合は人と人のつながりを基盤とし、医療・介護・福祉事業を通じて、組合員の要望を実現するための組織です。協同の力で組合員・地域にとって「あって良かった」と思える医療生協を目指します。

三井造船生活協同組合

代表者名 理事長
福井 直和

組合員数 21,150 人
(2020 年 10 月末現在)

出資金 521,395 千円
(2020 年 10 月末現在)

総事業高 3,517,880 千円
(2019 年度)

活動エリア 玉野市、岡山市、倉敷市



設立登記年月日 1950 年 11 月

職員数 (正 規) 99 人 (2019 年度末)
(定 時) 66 人 (2019 年度末)

概 略

創立以来「人と人のつながりを大切に、健康で心豊かな暮らしの実現を目指します」の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員の暮らしを支える共同相互組織として、店舗（玉野市内に 5 店舗）及び訪問販売や宅配弁当、また、玉野市の高齢化と交通手段のご利用が難しい組合員の皆様のため、毎週火曜日に本部店を基地として、お買い物巡回サービスの運行を行っています。

そして、三井 E & S 構内にミニ売店とプチコープ、共同購入での宅配事業や、葬祭事業及び福祉介護事業、リフォーム事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では 1956 年に結成した家庭会（地域組合員組織）を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは、2020 年度はコロナ禍の状況の中で中止となりましたが、第 1 回目の 1979 年から 2019 年まで連続 41 年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈（累計で 1,880 万円）など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしく未来に継続される地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

暮らしの中に、そして地域の中に生協がある。
～こういう生協をめざして～

倉敷医療生活協同組合

代表者名 代表理事 高羽 克昌

組合員数 65,861 人 (2020 年 11 月末現在)

出資金 1,692,329 千円 (2020 年 11 月末現在)

総事業高 10,314,941 千円 (2019 年度)

活動エリア 岡山県全域



設立登記年月日 1955 年 2 月 28 日

役員数 (常勤) 11 人
(非常勤) 17 人 (監事) 5 人

職員数 (常勤) 870 人 (非常勤) 432 人

概 略

倉敷医療生活協同組合は、総合病院水島協同病院を中心に、3 病院、2 医科診療所、7 歯科診療所、3 訪問看護ステーション、老人保健施設に加え、倉敷市水島高齢者支援センター、助産院など多彩な機能を持った 26 事業所を有して、関連する社会福祉法人・株式会社・NPO 法人とともに、医療・介護・福祉と健康づくりのネットワークを展開しています。

2013 年（創立 60 周年）、当組合は将来を見据え、医療の質の更なる向上や災害にも強い安全・安心な事業所づくりを提起し、2014 年「玉島協同病院」、2015 年「阿新歯科診療所」、2017 年「コプリハビリテーション病院・老健あかね」、2018 年「児島歯科診療所」を移転新築、2019 年「デイサービスセンターレインボー」を同一敷地内に新築しました。また、2018 年 7 月豪雨災害で全壊した真備歯科診療所も、2019 年 1 月から被災現地で再開しています。

2020 年はコロナ禍の中、各事業所において、外来トリアージ、ゲートキーパー、入館・面会制限、リモート面会など、感染防止対策を実践しながら事業を継続しました。

また、地域では「助け合い・支え合い」「人と人のつながり」を大切にするため、自治体・他法人・社協・ワーカーズコープ・地域組織・町内会等と連携・協力し、居場所づくりとしてのサロン活動や子ども食堂などの場で、新型コロナウイルス感染予防をしながら取り組めることで活動を継続しています。生協ならではの「班会」を地域に開放し、日常的な人のつながりを維持しながらフレイル予防・オーラルフレイル予防やまちづくりの輪を広げています。

引き続き、行政や地域の諸団体と協力し、組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざして活動を強めます。

会員生協紹介 (設立期順)

生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長 平田 昌三
組合員数 344,400 世帯
(2020年11月末現在)
出資金 100.0 億円
(2020年11月末現在)
総事業高 402.2 億円
(2019年度)
活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)
設立登記年月日 1956 年 6 月 13 日
役員数 (常勤理事) 5 人
(非常勤) 14 人
(常勤監事) 1 人 (監事) 4 人
職員数 (正 規) 400 人 (定 時) 1,459 人 (2020年11月末現在)
概 略



おかやまコープは、岡山県内の 4 割を超える 34 万世帯が加入する県下最大の消費者組織です。ビジョン「つながり育む 笑顔広がる 豊かなくらし」を掲げ、持続可能な社会の実現をめざして様々な取り組みをすすめています。宅配・店舗での購買事業を中心に、共済事業、福祉事業を行っています。安全・安心な商品の提供や産直・地産地消の取り組みをすすめる、循環型農業を応援しています。

商品、食育、食の安全、環境、ふくし、子育て、平和、国際協力支援など、多彩な組合員活動にも取り組み、行政や諸団体とのネットワークを通じて、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに参加しています。

子会社コープピーアンドエスでは、旅行、飲食、葬祭や保険などの斡旋事業を行っており、コープファームおかやま、ハートコープおかやまでは、耕作放棄地を活用して障がい者を雇用したトマト生産を行っています。

岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長
二宮 卓志
組合員数 16 万 5,044 人
出資金 11 億 7,123 万 4,100 円
契約件数 6 万 7,816 件 (38 万 6,653 件)
契約口数 34 万 2,386 口 (5,140 万 2,446 口)
給付件数 2,007 件 (2 万 5,659 件)
給付金総額 1,190 万 6,000 円
(39 億 5,732 万 9,513 円)
活動エリア 岡山県一円
設立登記年月日 1961 年 4 月 1 日
役員数 (常 勤) 2 人 (非常勤) 23 人
職員数 1 人 (25 人) ※ () 内は連合会実績
概 略



岡山県労働者共済生活協同組合 (こくみん共済 coop 岡山推進本部) は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

当生協は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。

「組合員のこくみん共済 coop」「正直なこくみん共済 coop」「努力のこくみん共済 coop」を信条としながら、組合員の暮らしを守るため、防災・減災の取り組みをすすめる、組合員や地域社会からの信頼に応えられるよう努力し続けます。

ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事
藤原 治
組合員数 372 人
出資金 372 千円
総事業高 16,621 千円
活動エリア 職域 (工場内)
設立登記年月日
1965 年 1 月 25 日
役員数 (常 勤) 0 人 (非常勤) 9 人
職員数 (正 規) 1 人 (定 時) 0 人
概 略



当生協は新岡山港に程近い、YANMAR 農業機械の総合機械メーカーとして 2013 年 4 月に新たにスタートしたヤンマー農機製造内で活動しております。

組合員数約 370 名と限られた範囲での活動ですが、組合員のニーズを反映した、きめ細かい対応をめざした活動が出来るよう努力していきたいと考えております。

2020 年は、新型コロナウイルスの影響でイベントなどの中止がありました。基本を大切にこれからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

津山医療生活協同組合

代表者名 理事長
井ノ上 義明
組合員数 5,343 人
出資金 76,462 千円
総事業高 371,413 千円
活動エリア 定款区域
(主には津山市と津山市周辺町村)
設立登記年月日
1980 年 8 月 12 日
役員数 (常 勤) 1 人
(非常勤) 17 人
(監 事) 4 人
職員数 (正 規) 24 人
(定 時) 26 人 (2020 年 3 月 31 日現在)
概 略



津山医療生協は、患者・利用者の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域の人達の命と健康を守るために全力を尽くしています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉 (介護) のネットワークをひろげています。

特に在宅診療では 365 日安心・安全の医療・介護サービスを行っています。また組合員との協同による地域での健康づくりを進めています。

コロナ禍で班会も行いにくなくなる中、YouTube のチャンネルを立ち上げました。2020 年 10 月より体操などの動画を 1 ヶ月に 1 本のペースで公開しています。

会員生協紹介 (設立期順)

岡山大学生協同組合

代表者名 理事長
桑原 敏典

組合員数 14,742人

出資金 265,584千円

総事業高 1,968,179千円

活動エリア 岡山大学津島・
鹿田キャンパス



設立登記年月日
1995年2月20日

役員数 (常勤) 2人
(非常勤) 28人
(監事) 4人

職員数 (正規) 22人
(定時) 158人

概 略

岡山大学生協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのピーチユニオン・マスカットユニオン・ピオネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利厚生施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。

就実生活協同組合

代表者名 理事長
丹生 裕一

組合員数 1,868人
(2020年11月末現在)

出資金 37,265千円
(2020年11月末現在)

総事業高 146,554千円
(2019年度)



活動エリア 就実学園 (現在は、大学・短大キャンパス内でのみ営業)

設立登記年月日 2016年8月5日

役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 15人 (監事) 4人

職員数 (正規) 1人 (定時) 26人

概 略

就実生活協同組合は、就実大学・就実短期大学の学生・教職員が中心となって設立されました。組合員である学生及び教職員が自主的に運営に参加し、大学の生活環境を改善・向上させ、学習や教育及び研究活動をより充実させるために、「学生にとって実りある居場所づくり」を目標に立て、組合員の皆さんの要望を聞き、その要望に多く応えられる担い手として、様々な活動を行っています。

現在は、大学、短期大学の福利厚生施設の中で食堂、喫茶、売店、書店などの事業を行っており、少しずつサービスの拡大、改善を行い加入・利用は伸長しています。また、seedS (シーズ：生協学生委員会) の活動も発展、拡大しており、新入生の入学準備サポートや交流会の実施、日常のキャンパスを盛り上げるお楽しみ企画や、今後の活動のヒントになる調査活動などを行っています。今後もキャンパスライフの充実を目指し、seedSの活動を通じてキャンパス内のコミュニティの発展や、教育・研究の支援ができるように事業を発展させていきたいと思っています。

グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長
飯村 美智子

組合員数 4,970人
(2020年3月20日現在)

出資金 303,499千円
(2019年度末)

総事業高 901,111千円
(2019年度)



活動エリア 岡山市・倉敷市・赤磐市・瀬戸内市・総社市及び
その周辺地域 (共同購入と個配事業)

設立登記年月日 2003年8月13日

役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 9人 (監事) 3人

職員数 (職員) 17人 (定時職員) 19人

概 略

グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。

無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べもの」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていく取り組みとして位置づけ進めています。

今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切な事は「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

県生協連会員生協名簿

会 員 生 協 名	住 所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原 255	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目 5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市中区赤坂本町 2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町 13-1	TEL 086-444-4321 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市北区奉還町 1-7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-8569 岡山市北区駅元町 6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-2500
ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市中区江並 428	TEL 086-276-8111 FAX 086-276-8152
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福 546-1	TEL 0868-28-2057 FAX 0868-28-3835
岡山大学生協同組合	〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市北区下中野 311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2569
就実生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原 1-6-1	TEL 086-201-2250 FAX 086-201-2259

岡山県生活協同組合連合会紹介



1960年3月に設立認可を受けた岡山県生協連は、2020年3月に60周年を迎えました。

現在、11の会員生協に、延べ70万余世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織となっており、7つの購買生協、3つの医療生協、1つの共済生協で構成されています。

生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 近藤 清志

会 員 数 11 生協

会員総組合員数 705,063 人 (2019 年度)

会員総出資金 1,613,806 万円 (2019 年度)

会員総事業高 7,265,456 万円 (2019 年度)

設立登記年月日 1960 年 3 月 2 日

役 員 数 (理 事) 13 人 (監 事) 3 人

職 員 数 (事務局長) 1 人 (定 時) 1 人

SDGs は 2030 年に向けて世界が合意した「誰一人取り残さない」
世界の実現を目指す、17 の持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



協同組合の役割発揮が期待されています。

岡山県生活協同組合連合会 岡山市北区奉還町 1-7-7 オルガ 5 階

Tel 086-230-1315 Fax 086-230-1317 ホームページ <http://okayama.kenren-coop.jp/>